

## C. そ の 他

### I 発表論文抄録

# 1 ポリオ生ワクチン投与後の中和抗体持続年数の推定

—同一人を7年間追跡調査した結果から—

梅津 幸司	山本 仁	沖村 容子
秋山 和夫	助野 典義	新妻 沢夫
小室 健一*	白取 剛彦*	今野 二郎***
海老名卓三郎****	石田名香雄****	

同一小児60名を7年間追跡調査しポリオ生ワクチン

投与後の中和抗体の持続年数を推定したところ、ポリオ I, III型は約20年から30年前後、ポリオII型は40年以上抗体が持続すると試算された。  
(医学のあゆみ 132, 9, 666~670, 1985)

- \* 宮城県環境調整課
- \*\* 宮城県総合衛生学院
- \*\*\* 宮城県塩釜保健所
- \*\*\*\* 東北大学医学部細菌学教室

# 2 HBV-DNAのインテグレーション

—実験室診断の立場から—

白石 広行

遺伝子組み換え技術の進歩により、実験室において比較的簡単にHybridizationを利用してHBV-DNAの検査が出来るようになり、これまでのように研究目的だけでなく日常検査のひとつとしてHBV-DNAの測定

を行うことが可能にも、また必要にもなってきた。そこで血中HBV-DNA測定の意義についてこれまでのデータをまとめた。  
(臨床病理 XXX 11, 11, 1173, 1984)

# 3 宮城県における酸性雨調査

北村 洋子

宮城県では、環境中の大気汚染物質の分布量に関する調査研究の一環として、昭和55年11月まで、降水の性状を把握するため、初期降雨及び一降雨の成分を分析し、実態を調査した。調査地点は、仙台市、石巻市、岩沼市、宮城町で、分析項目は、pH、導電率、Cl<sup>-</sup>、SO<sub>4</sub><sup>2-</sup>、NO<sub>3</sub><sup>-</sup>、NH<sub>4</sub><sup>+</sup>、HCHO、Na<sup>+</sup>、K<sup>+</sup>、Ca<sup>2+</sup>、Mg<sup>2+</sup>、TOC、アクロレイン、重金属である。4地点同時にサンプリング

できたのは7回であり、延べ37回(174件)の雨をサンプリングしているが、pH4.0以下は6件あり、いずれも降り始めの3mm目までの間に出現している。主成分分析法等により、降水中の成分を工場排ガス、自動車排ガスなどによる人為起源の汚染質と、海塩、土壌などによる自然界起源の汚染質のグループにわけることができ、それぞれの挙動の違いを認めた。(環境技術 2, 150, 1985)

#### 4 総説 スパイクタイヤ使用に伴う粉じんの現状と対策

氏家 愛子

昭和56年度から昭和58年度の調査結果をもとに、宮城県における冬期の道路粉じんの実態を降下ばいじん、浮遊粉じん、浮遊粒子状物質濃度の面から述べた。

また、浮遊粒子状物質濃度と気象因子及びスパイクタ

イヤ装着率との関係、道路清掃の効果等について述べ、望まれる道路粉じん対策についてまとめた。

(産業公害 21, 126, 1985)

## Ⅱ 学 会 发 表

## Ⅱ 学 会 発 表

## 1. ダイオキシンに関する研究(Ⅱ)

牛 沢 勇 佐藤信俊 鈴木 滋 菊地秀明  
高槻圭吾(理化学部)  
日本食品衛生学会第47回学術講演会 昭和59年5月17~18日(東京都)

## 2. Human Parvo Virus in Japan

白石広行 大河内一雄\* Robert H. Purcell\*\* (微生物部 \*九州大学,  
\*\*NIH, Bethesda, USA)  
第6回国際ウイルス学会 昭和59年9月1~7日(仙台市)

## 3. 塩素化ジフェニルエーテル化合物の生体影響に関する検討

菊地秀明 鈴木 滋 佐藤信俊 高槻圭吾  
牛 沢 勇(理化学部)  
第21回全国衛生化学技術協議会年会 昭和59年9月27~28日(山口市)

## 4. スパイクタイヤによる道路粉じん調査

氏家愛子 松浦 勉 加藤謙一 北村洋子  
菊池 格(大気部)  
第10回北海道・東北ブロック公害研研究連絡会議 昭和59年9月27日(秋保町)

## 5. 漆沢ダムにおける自然的要因による水質汚濁と湛水後3年間の水質変動

佐々木久雄 佐々木俊行\* 田中和郎\*\* 高橋紀世子\*  
鎌田正弘 佐藤秀夫 宮崎栄一郎\*\*\* 高橋正弘\*\*\*\*  
大庭和彦\*\*\*\* 佐藤春雄(水質部 \*現宮城県宮黒保健所 \*\*現宮城県工業立地調整課  
\*\*\*現宮城県環境調整課 \*\*\*\*現宮城県公害規制課)  
第10回北海道・東北ブロック公害研研究連絡会議 昭和59年9月27日(秋保町)

## 6. 五点比較式臭袋法による測定について

佐藤博明 小野研一 八木 純\* 飯塚武一  
市川敬典\*\* (特殊公害部 \*現宮城県工業立地調整課 \*\*現宮城県原子力センター)  
第10回北海道・東北ブロック公害研研究連絡会議 昭和59年9月27日(秋保町)

## 7. B(a)Pの分解を防いだPAHの分析法並びに魚介類の分析

高槻圭吾 鈴木 滋 佐藤信俊 牛 沢 勇  
第23回日本薬学会東北支部大会 昭和59年10月14日(仙台市)

## 8. 水素化ハ素発生一原子吸光法におけるバックグラウンド成分と環境標準試料リヨウブおよびクロレラ中のひ素の測定

千葉 規 菅原隆一 湯田和郎(環境衛生部)  
第23回日本薬学会東北支部大会 昭和59年10月14日(仙台市)

## 9. ジルコニウム共沈一原子吸光法による環境標準試料リヨウブおよびクロレラ中の各種重金属の測定

菅原隆一 千葉 規 湯田和郎(環境衛生部)  
第23回日本薬学会東北支部大会 昭和59年10月14日(仙台市)

## 10. 伝染性紅斑とヒトパルボウイルス

白石広行 白地良一 沼崎義夫\* 熊坂鉄郎\*\*  
Robert H. Purcell\*\*\* Philip P. Mortimer\*\*\*\* (微生物部 \*国立仙台病院 \*\*宮城  
県泉市熊坂医院 \*\*\*NIH, Bethesda, USA \*\*\*\*CPHL, London, UK)  
第38回日本細菌学会東北支部総会 昭和59年10月23~24日(天童市)

## 11. 宮城県における恙虫病の血清学的検索 一第2報一

秋山和夫 佐久間 隆\* 白地良一 山本 仁

- 新妻 沢夫 白取 剛彦\*\* (微生物部 \*現宮城県仙南保健所 \*\*宮城県総合衛生学院)  
第38回日本細菌学会東北支部総会 昭和59年10月23~24日(天童市)
12. 道路周辺での自動車排ガス関連物質 (NO<sub>2</sub>, BaP等)による大気汚染への影響  
北村 洋子 氏家 愛子 加藤 憲治 菊池 格 (大気部)  
第25回大気汚染学会 昭和59年11月7~9日(宇部市)
13. ばい煙発生施設で使用されている燃料中の硫黄分の動向について  
松浦 勉 北村 洋子 氏家 愛子 安倍 睦夫\* (大気部 \*現宮城県  
大崎保健所)  
第11回環境保全・公害防止研究発表会 昭和59年12月6~7日(東京都)
14. AGPによる水質評価  
佐々木 久雄 田中 和郎\* 伊藤 孝一 斎藤 善則  
鎌田 正弘 (水質部 \*現宮城県工業立地調整課)  
北上川・阿武隈川水系水質汚濁対策連絡協議会第4回検討会 昭和60年2月6日(仙台市)
15. 地域住民のレプトスピラ感染実態  
佐久間 隆\* 秋山 和夫 白地 良一 新妻 沢夫  
遠藤 好喜\*\* (微生物部 \*現宮城県仙南保健所 \*\*現宮城県大崎保健所)  
第21回宮城県公衆衛生学会学術総会 昭和60年2月15日(仙台市)
16. 愛玩動物と飼育者のトキソプラズマ感染状況  
白地 良一 (微生物部)  
第21回宮城県公衆衛生学会学術総会 昭和60年2月15日(仙台市)
17. 宮城県における恙虫病の血清学的検索 一第2報一  
秋山 和夫 佐久間 隆\* 白地 良一 山本 仁  
新妻 沢夫 白取 剛彦\*\* (微生物部 \*現宮城県仙南保健所 \*\*宮城県総合衛生学院)  
第21回宮城県公衆衛生学会学術総会 昭和60年2月15日(仙台市)
18. 酵素抗体法によるATLウイルス検出状況  
白地 良一 (微生物部)  
第21回宮城県公衆衛生学会学術総会 昭和60年2月15日(仙台市)
19. 伝染性紅斑とヒトパルボウイルス  
白石 広行 白地 良一 沼崎 義夫\* 熊坂 鉄郎\*\*  
Robert H. Purcell\*\*\* Philip P. Mortimer\*\*\*\* (微生物部 \*国立仙台病院 \*\*宮城  
県泉市熊坂医院 \*\*\*NIH, Bethesda, USA \*\*\*\*CPHL, London, UK)  
第21回宮城県公衆衛生学会学術総会 昭和60年2月15日(仙台市)
20. ポリオ生ワクチンの効果の特続性とポリオの今後  
梅津 幸司 山本 仁 沖村 容子 新妻 沢夫  
小室 健一\* (微生物部 \*現宮城県環境調整課)  
第21回宮城県公衆衛生学会学術総会 昭和60年2月15日(仙台市)
21. 除草剤の生体影響に関する研究  
菊地 秀明 鈴木 滋 佐藤 信俊 高槻 圭吾  
牛沢 勇 (理化学部)  
第21回宮城県公衆衛生学会学術総会 昭和60年2月15日(仙台市)
22. 有機塩素系農薬の食品汚染と人血液中濃度について  
鈴木 滋 佐藤 信俊 高槻 圭吾 山田 わか  
小野 研一 菊地 秀明 百川 和子 牛沢 勇 (理化学部)  
第21回宮城県公衆衛生学会学術総会 昭和60年2月15日(仙台市)
23. 本県におけるガン死亡率と環境要因との関係における統計的解析 一第2報一  
清野 茂\* 庄子 晃子 千葉 規 郡山 力\*\*

一ノ 度 義 巳 \*\*\* (環境衛生部 \*現宮城県公害規制課 \*\*現(財)宮城県公衆衛生協会 \*\*\* 宮城県大崎保健所)  
第21回宮城県公衆衛生学会学術総会 昭和60年2月15日(仙台市)

24. ガス状ハロゲン化炭化水素の排出状況調査結果について

菊 池 格 (大気部)  
第21回宮城県公衆衛生学会学術総会 昭和60年2月15日(仙台市)

25. 低沸点有機塩素化合物の地下水における挙動について

木 戸 一 博 千 葉 規 湯 田 和 郎 国 包 章 一 \*  
相 沢 貴 子 \* 真 柄 泰 基 \* (環境衛生部 \*国立公衆衛生院)  
第19回日本水質汚濁学会 昭和60年3月13日(東京都)

26. 宮城県におけるレプトスピラ症について

秋 山 和 夫 佐 久 間 隆 \* 白 地 良 一 山 本 仁  
新 妻 沢 夫 遠 藤 好 喜 \*\* (微生物部 \*現宮城県仙南保健所 \*\*現宮城県大崎保健所)  
第22回レプトスピラ・シンポジウム 昭和60年3月29日(東京都)

27. 環境騒音の評価量としてのLdnに関する検討 — Ldn予測モデルの実証 —

加 賀 谷 秀 樹 小 室 健 一 \* 菊 地 英 男 高 橋 宣 明 \*\*  
佐 藤 春 雄 (情報管理部 \*現宮城県環境調整課 \*\*現宮城県原子力安全対策室)  
第11回環境保全・公害防止研究発表会 昭和59年12月6～7日(東京都)

### Ⅲ 業績発表会



## 第 3 回

## Ⅲ 宮城県保健環境業績発表会

〔試験検査部門〕

と き 昭和60年3月1日(金) 9:00~16:00

ところ 宮城県保健環境センター大会議室

〔午 前 の 部〕

座 長 加 藤 ハマ子 (公衆衛生課) 9:20~10:05

1. エンザイム・イムノアッセイ(EIA)によるTSH定量法について  
保健環境センター微生物部 ○清野 陽子 沖村 容子 白石 広行 新妻 沢夫
2. 今年のインフルエンザについて  
保健環境センター微生物部 ○助野 典義  
" 情報管理部 山本 仁
3. A型肝炎の疫学  
保健環境センター微生物部 ○白地 良一 白石 広行 秋山 和夫 新妻 沢夫  
登米保健所 首藤 友彦 塩釜保健所 今野 二郎  
岩沼保健所 山口 昌子 公衆衛生課 鈴木 禎
4. 伝染性紅斑とヒトパルボウイルス  
保健環境センター微生物部 ○白石 広行

座 長 鈴 木 禎 (公衆衛生課) 10:05~10:40

5. 嘔吐症のサーベイライズで見出されるウイルスの多様性  
保健環境センター微生物部 ○梅津 幸司 新妻 沢夫  
" 情報管理部 山本 仁
6. 宮城県における恙虫病  
保健環境センター微生物部 ○秋山 和夫 佐久間 隆 白地 良一 新妻 沢夫  
" 情報管理部 山本 仁  
総合衛生学院 白取 剛彦
7. コガタアカイエカ発生の動向  
保健環境センター情報管理部 ○山本 仁

座 長 庄 司 卓 郎 (環境衛生課) 10:40~11:25

8. 魚介類の黄色ブドウ球菌汚染調査  
石巻保健所 ○葛岡 勝悦 米倉 豊 佐々木淳子 石川 潔 安藤 孝 梶野 光永  
茨木 隆雄 鈴木 康民 畠山 貞夫 板橋 林治
9. *Yersinia enterocolitica* の検査法と分離例についての考察  
保健環境センター微生物部 ○川野 みち 栗野恵美子 湯田 和郎(現環境衛生部)
10. 豚におけるエルシニア・エンテロコロリチカの保有状況  
仙北食肉衛生検査所 ○宍戸 義典
11. 食肉中の抗菌性物質の検定  
保健環境センター微生物部 ○加藤 浩之 栗野恵美子 佐久間 隆 川野 みち 助野 典義  
白地 良一 新妻 沢夫

座長 三浦正隆 (環境衛生課) 11:25~12:10

12. 蛍光検出高速液体クロマトグラフィーによる飼料用抗生物質モネンシンの分析法並びにGC-MSによる確認法  
保健環境センター理化学部 ○高槻 圭悟 鈴木 滋 牛沢 勇
13. カビ毒による食品汚染  
保健環境センター理化学部 ○山田 わか 鈴木 滋 佐藤 信俊 高槻 圭悟 牛沢 勇  
環境衛生課 広重 憲生 高橋 秀逸 三浦 正隆
14. 魚肉練製品中の臭素酸カリウム検査について  
保健環境センター理化学部 ○百川 和子 山田 わか 菊地 秀明 佐藤真貴子 牛沢 勇  
環境衛生課 広重 憲生 高橋 秀逸 三浦 正隆
15. L-アスコルビン酸共存下における食品中の亜硝酸ナトリウムの定量  
石巻保健所 ○佐々木淳子 石川 潔 葛岡 勝悦 米倉 豊 安藤 孝志 紺野 芳弘  
榎野 光永 茨木 隆雄 鈴木 康民 三塚 雅子 畠山 貞夫 鈴木 弘一  
板橋 林治

[ 昼 食 ・ 休 憩 ]

[ 午 後 の 部 ]

座長 土谷 武 (環境衛生課) 13:00~13:35

16. 本県における水道水中トリハロメタンの状況  
— 昭和56~58年度の3ヶ年間の検査結果 —  
保健環境センター環境衛生部 ○清野 茂 (現宮城県公害規制課) 湯田 和郎
17. 低沸点有機塩素化合物の地下水中における挙動について  
保健環境センター環境衛生部 ○木戸 一博 湯田 和郎  
公害規制課 大槻 文郎 (現宮城県環境調整課) 長田 明光
18. 有害物質を含有する家庭用品の検査について  
保健環境センター理化学部 ○佐藤真貴子 百川 和子 菊地 秀明 佐藤 信俊 牛沢 勇  
小野 研一 (現特殊公害部) 加茂えり子 (現仙塩流域下水道事務所)  
環境衛生課 武田 功 小笠原久夫

座長 瀬戸輝武 (原子力安全対策室) 13:35~14:10

19. 2, 3の農薬中毒事故事例について  
保健環境センター理化学部 ○佐藤 明彦 佐藤 信俊 鈴木 滋 牛沢 勇  
国立仙台病院麻酔科 関川 暁
20. 水酸化ジルコニウム共沈法による各種重金属の測定  
保健環境センター環境衛生部 ○菅原 隆一 千葉 規 湯田 和郎
21. 宮城県沿海の養殖カキ中の放射性銀について  
原子力センター ○中村 栄一 石川 陽一 市川 敬典

座長 高橋克寿 (公害規制課) 14:10~14:45

22. 二迫川上流の濃縮毒性について  
保健環境センター水質部 ○斎藤 善則 吾妻 正道 石山 正記 木村 茂 船木 宏  
清水 正夫
23. 漆沢ダムの水質汚濁調査について —第2報—  
保健環境センター水質部 ○田中 和郎 佐々木久雄 伊藤 孝一 斎藤 善則 鎌田 正弘  
清水 正夫

## 24. AGPによる漆沢ダムの富栄養化の検討 ー第2報ー

保健環境センター水質部 ○佐々木久雄 田中 和郎 伊藤 孝一 斎藤 善則 鎌田 正弘  
清水 正夫

座長 大場 亮二 (環境調整課) 14:45～15:10

## 25. 閉鎖性水域の水質予測モデルについて

保健環境センター情報管理部 ○加賀谷秀樹 高橋 宣明 佐藤 秀夫

## 26. 仙塩地域における風の地域特性について

保健環境センター大気部 ○加藤 憲治 四十物良一 阿部 勝彦 菊池 格 加藤 信男

座長 仲田 忠二 (公害規制課) 15:10～15:45

## 27. ごみ焼却炉における水銀排出実態について

保健環境センター大気部 ○松浦 勉 加藤 謙一 菊池 格 加藤 信男

## 28. 石炭燃料転換施設調査結果

保健環境センター大気部 ○加藤 謙一 松浦 勉 氏家 愛子 北村 洋子 菊池 格  
加藤 信男

29. 市街地における自動車排ガス関連物質(NO<sub>2</sub>, BaP等)の分布

保健環境センター大気部 ○北村 洋子 松浦 勉 阿部 勝彦 四十物良一 氏家 愛子  
加藤 謙一 加藤 憲治 菊池 格 加藤 信男

座長 高梨 忠男 (公害規制課) 15:45～16:10

## 30. スパイクタイヤによる道路粉じんの垂直・水平分布

保健環境センター大気部 ○氏家 愛子 松浦 勉 加藤 謙一 北村 洋子 菊池 格  
加藤 信男

## 31. 悪臭官能試験法(5-2法)による測定精度の検討

保健環境センター特殊公害部 ○佐藤 博明 小野 研一 飯塚 武一  
八木 純(現工業立地調整課) 市川 敬典(現原子力センター)

# IV 談 話 会

## 談 話 会

幅広く公衆衛生上の知見を得ることを目的として、所内外の講師に総説、最近のトピック、現在の試験、研究内容等の話題を提供していただき、討論していく会である。

原則とし、毎月第3木曜日午後1時15分から所内会議室において開催している。

## 第 44 回 (昭和59年4月19日)

- CNP類の変異原性 (理化学部) 佐藤 信 俊
- AIDSのこと (微生物部) 白石 広 行

## 第 45 回 (昭和59年5月17日)

- 地下水汚染について (環境衛生部) 木戸 一 博

## 第 46 回 (昭和59年6月21日)

- 情報を考える (情報管理部) 加賀谷 秀 樹
- “百日咳”ワクチン (微生物部) 秋 山 和 夫

## 第 47 回 (昭和59年7月21日)

- 先天代謝異常について (微生物部) 沖 村 容 子
- 本県における“し尿浄化槽”の現状 (環境衛生部) 清 野 茂

## 第 48 回 (昭和59年8月9日)

- 水の塩素処理とトリハロメタン問題 (水質部) 伊 藤 孝 一

## 第 49 回 (昭和59年9月20日)

- 「川崎病」 (情報管理部) 山 本 仁

## 第 50 回 (昭和59年10月18日)

- カビ毒について (理化学部) 山 田 わ か
- つつが虫病について (微生物部) 秋 山 和 夫

## 第 51 回 (昭和59年11月22日)

- 遺伝子組換 (東北大学農学部応用微生物学教室) 伊 藤 一 敏

## 第 52 回 (昭和59年12月6日)

- 宮城県の水資源とその対策 (宮城県土木部水資源課) 武 田 洋

## 第 53 回 (昭和60年1月24日)

- 2, 3, 7, 8-TCDDの毒性 (東北大学医学部衛生学教室) 池 田 正 之

## 第 54 回 (昭和60年1月25日)

- ハプトグロビンの遺伝子 (米国ウインスコンシン大学) 前 田 信 代

## 第 55 回 (昭和60年2月21日)

- 町づくりにみられる日本とフランスの思想の差  
— フランス研修視察から — (宮城県企画部地域振興課) 小 林 伸 一

## 第 56 回 (昭和60年3月20日)

- 「気仙沼の水質、その後」 (水質部) 鎌 田 正 弘

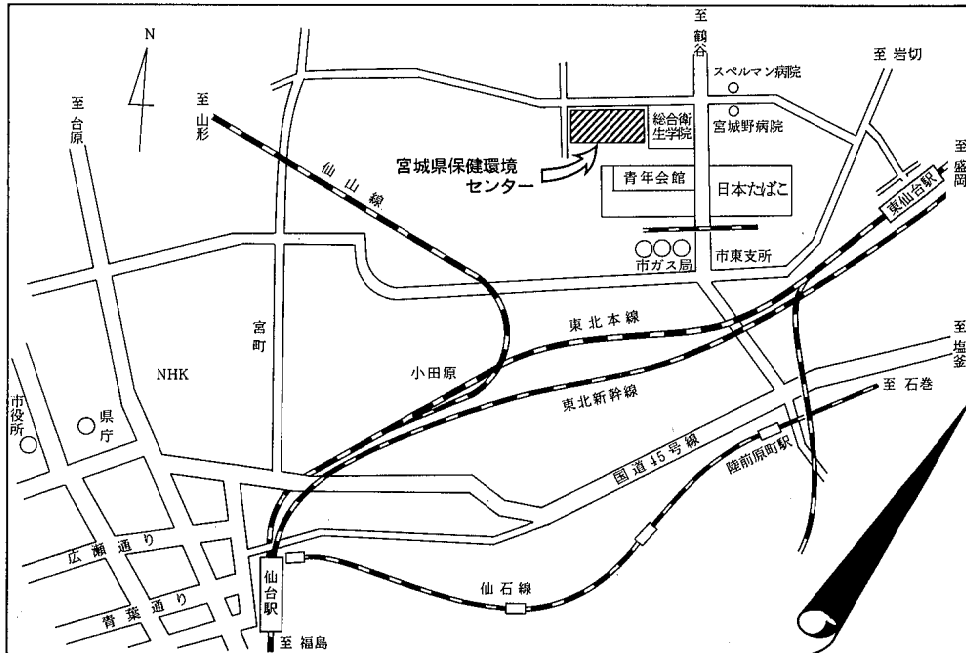
## 宮城県保健環境センター年報執筆要領

1. (原稿の種類) 調査, 研究論文および資料とする。
2. (原稿の執筆規定)
  - 1) 原稿はB5判(20×20字)横書き原稿用紙に楷書で明瞭に書く。  
学術用語は学会の慣例に従う。
  - 2) 原稿は表題, 著者名, 序文(またははじめに), 方法, 結果, 考察(または結果と考察), 謝辞, 参考文献の順序に準じて記載する。  
資料も原則として, この順序に従って記載する。
  - 3) 著者に他機関の人を含む場合は, \*印を付して脚注に記載する。
  - 4) 参考文献は, 最少限にとどめ, 本文中の引用箇所(1), 2)~4)のように肩番号を付して示す。  
(記載方法)  
    雑    誌: 著者名: 雑誌名, 巻, 号, 頁(西暦年)  
    単    行    本: 著者名: 書名, 版数, 頁, 発行所(西暦年)
- 5) 図, 表は別終に記載し, 表題を付け(表の題は表の上に, 図の題は図の下に), それぞれ図1, 表1のように一連の番号を付け, 本文のあとにまとめて綴る。  
    図表の入る位置は, 本文中に赤字で示す。  
    図はそのまま製版できるようにA4判の指定用紙(オストリッチグラフ用紙)に, 黒インクで丁寧に書く。
- 6) 写真は, 使用が不可欠の場合のみ, 強いコントラストを示すものに限って受付ける。
3. (原稿の提出) 原稿は毎年7月末日までに, 各部の編集委員に提出する。  
執筆規定に従っていない場合は, 書き直しを求める場合がある。  
原稿は返却しないので, 各自必要に応じコピーをとっておくこと。

### 編 集 委 員

佐藤秀夫(委員長)	平富貴
佐藤春雄(副委員長)	加藤謙一
横尾正二	伊藤孝一
白石広行	小池信吾
佐藤真貴子	内田隆夫

### 宮城県保健環境センター



宮城県保健環境センター年報 第3号  
(昭和59年度)

---

---

印刷 昭和60年 月 日

編集発行 宮城県保健環境センター

〒983 仙台市幸町四丁目7番2号  
電話 0222-57-7181(代)

---

---